

2011 年度U-12全少静岡県予選決勝トーナメント

■目的

ベスト16から準決勝までのゲームを観察することにより①8対8のサッカーについて、②子どもたちのゲーム技術について、育成指導の参考になる形で考察する。

■分析対象:

アスクラロ沼津、ピュア、清水第八、韮山、サルファス、浜松蒲、カワハラ、高洲南、掛川JFC

■報告対象:

U-12年代を指導するコーチ

■流れおよび全体像:

- ・8対8。60M×40Mのピッチでの40分ゲーム。少年用ゴール。1人審判制。代表的なシステムは3:2:2もしくは3:3:1。
- ・1回戦及び2回戦までは20メートル×30メートル程度の縦長のスペースでの直線的にボールが運ばれるサッカーが見られたが準決勝ではサイドのスペースを使った広がりのあるサッカーが見られた。
- ・子どもらしいさわやかな雰囲気、元気のよいサッカーが展開された。

■課題の発見と分析

8人制▶11人制に比して人数が少ないので「エース」の存在が大きな比重を占める。ゴールを守る(GK)、ボールを奪う(DF)、チャンスを作る(MF)、ゴールを決める(FW)ことに存在感を示す選手が2,3人いるサッカーが強い。特にGKとシュートを決める選手の差が勝敗を分けていた。また、攻撃中心のサッカーであり守備はどのチームも強くない。

技術▶プレッシャーが少ない状況では平均以上の技術がある。もっと身に着けるべきはパスのスピード、パスのメッセージ、局面を変えるターン、浮き球の処理、ヘディングといった基礎技術。さらに自分の置き場所にボールを収めて奪われずにボールにプレーする技術、動きながらボールを止める、動いている味方に合わせてパスする技術、動きのスピードに合わせてボールを運ぶ技術が足りない。

そして重要な基礎技術として、ピッチ上の「よいポジションにいてよいタイミングで動く技術」が、ゲーム中にあるいはボールが動いている間に「観る」という作業を含め大いに弱いと感ずる。空間・局面を意識してプレーする意図的な選手をあまり見なかった。

ゲーム展開▶中央部縦長の状況での攻防が多い。これはボールを相手陣内の左右のサイドで奪われると守備の人数がたりなくなる状況ができるのでリスクを回避しようとしてなのか、ただ展開力がないためなのか不明。ただし、サイドのポジションのプレーヤーを意図的に育てないと総花的平均的プレーヤーしか育てない危機感も感じた。また、守備選手の攻撃の意識は高くない。GKの攻撃への関わり、起点となるプレーが少ない。

■提言(7つ)

すべてはトレーニングで▶

- ・ゲーム中いつもよいポジションをとり、タイミングよく動きだすことを意識させる。
- ・攻撃時3人の守備者のうち1名はボランチにあがってプレーさせるチャレンジを。
- ・サイドバックの攻撃参加という選択肢を持たせる。その際のカバーリングとセットで。
- ・攻撃時も守備時も全員が三日月(メディアルーナ)のような外に広がる動き・中に絞る動き(スライド・カバー)をすれば攻守のバランスの課題はある程度解決されるのでピッチを広く使った攻撃とリスクを減らした守備が可能になる。
- ・GKを使った攻撃の組み立てを行う。
- ・ベンチワーク・・・ゲーム前、ハーフタイムは全体への指示に加え、個々の選手へのアドバイスによって気付きを与えチームを変える方法も。
- ・自分達でゲーム中の問題を解決しようとするのを促す指導者のアプローチもさらに深めたい。